



横浜市立一本松小学校

10月号

# 学校だより

横浜市立一本松小学校

校長 高桑 透

令和6年9月30日



横浜市西区制80周年

## 『チャレンジし続けること』

校長 高桑 透

ようやく秋らしい風を感じるようになってきました。先週からやっと外遊びができるようになると、待ってましたとばかりに楽しい声が校庭に響いていました。やはり、子どもたちにとって、青空の下、元気に走り回ることができることは必要だなと感じました。

さて、海の向こうのメジャーリーグから大谷翔平選手のニュースが毎日のように飛び込んできます。今シーズンは打者に専念し、信じられないような大記録を打ち立てています。すでに数年前から MVP をとるようなスーパースターですが、さらに進化を続けています。私たちの想像をはるかに超えたところにいる大谷選手は、なぜこんなにチャレンジを続けることができるのでしょうか。

2月に大谷選手からグローブが日本全国の小学校に届けられました。その中に子どもたちへの手紙が入っていました。子どもたちに野球を楽しんで欲しいという理由について「野球こそが、私が充実した人生を送る機会を与えてくれたスポーツだからです。」と書かれていました。

私たちは、目の前の子どもたちにチャレンジすることの大切さを伝えてきました。失敗してもできなくても良いから、まずはやってみよう、努力してみようと声をかけます。でも、子どもたちにとっては、失敗したりできなかつたりすることは、恥ずかしいと感じたり、がっかりしたりするなど、できれば経験したくないと思ってしまうことが多いようです。そのため、一歩目が踏み出せなかつたり、踏み出すまでに時間がかかたりします。

野球というスポーツはうまくいかないこと（失敗）がたくさんあります。ピッチャーをしていたら、相手に打たれてしまったり、守備についていたらエラーをしてしまったり。バッターになれば、あの大谷選手でも10回中7回はアウトになってしまいます。そんな失敗の連続である野球がなぜ楽しいかといえ、その失敗を乗り越えて良いプレーができたり、みんなで試合に勝った喜びを感じたりできるからだと思います。その喜びを味わいたくて、もっと速い球を投げたい、もっと守備が上手になりたい、ヒットを打ちたいという気持ちになり、できないことにチャレンジすることができるのだと思います。大谷選手は仲間たちと共にチャレンジしてきたことで、楽しい野球を知り、そして今もドジャースの仲間たちと共にチャレンジして世界を目指しているのでしょう。大谷選手が小学生のみなさんに伝えたかったことは、失敗を乗り越えてチャレンジすることが大切だということではないのでしょうか。それを感じることができる野球に触れてほしいと思っています。

今月末には一本松オリンピックがあります。運動が得意な子もいれば苦手な子もいます。なかなか前向きになれない子たちも、それを乗り越えてチャレンジすることで、一つでも楽しみを見つけ、達成感を味わうことで、来年の一本松オリンピックが楽しみと思うことができるようになってほしいと思います。